

63年度 県リーグ 西淡FC 優勝

63年度兵庫県社会人リーグは4月10日に開幕し10月30日に終了した。前期を全勝で折り返した西淡FCが終始トップを走り、三菱重工神戸FCに勝点1上回って優勝した。

海狹を渡って遠方からメンバーを良くそろえ、チームを引っ張って来た素川監督とメンバーの健闘をたたえたい。

準優勝の三菱重工は、前期西淡FCと明倫クラブに2敗したが、前期終了時の反省点を軸に後期は7勝1分けとよりかえし、西淡FCに迫ったが、追いつかず準優勝となった。

前記2チームは、関西府県リーグ決勝大会に出場し、関西リーグ入りをめざして戦う事になった。

その他、神戸FC、明倫クラブ、特に本年県リーグ入りしたヤンマー尼崎が5位にくい込む健闘を見せた。残念なことは全国社会人大会関西代表にもなった、三木FCがチームの立て直しの出来ないまま最下位となり、北播支部に戻る事になった。来期は是非頑張る再度県リーグ入りをめざしてほしい。

〔河北 記〕

昭和63年度 兵庫県社会人リーグ戦 成績表

	西淡FC	三菱神戸	神戸FC	明倫ク	ヤンマー	旭ガラス	明南FC	神崎工機	三木FC	勝	分	敗	勝点	得失点差	順位
西淡FC		○3-1	○1-0	○3-0	○3-0	○1-0	○5-1	○1-0	○1-0	13	1	2	27	+22	1
三菱神戸	●0-2		○1-0	○2-1	△1-1	○1-0	○5-1	●2-3	○2-0	12	2	2	26	+27	2
神戸FC	●1-3	△0-0		●1-3	○1-0	○5-0	○2-1	○4-0	○2-0	9	4	3	22	+28	3
明倫クラブ	○2-0	△1-1	○3-0		○3-1	○1-0	○4-0	○5-1	○2-0	10	0	6	20	+6	4
ヤンマー	●0-1	△0-0	○3-1	○2-1		○6-0	○4-1	△2-2	○5-1	8	2	6	18	+4	5
旭ガラス	○0-1	●0-5	○0-6	●0-2	●1-2		●1-3	○3-0	○5-0	4	1	11	9	-14	6
明南FC	○0-1	●0-1	△3-3	●1-2	●0-2	○3-1		●0-4	○5-2	4	1	11	9	-17	7
神崎工機	●0-1	●0-4	△2-2	●1-2	○0-3	○0-3	○2-1		△1-1	3	2	11	8	-27	8
三木FC	○3-2	●1-5	○0-2	○0-2	○0-4	●2-5	○0-3	○2-1		2	1	13	5	-29	9

関西府県リーグ決勝大会始まる 西淡FC、三菱神戸が 関西リーグをねらう

昭和63年度社会人府県リーグ決勝大会は12月4、11、18、25日に神戸中央、靱サッカースタジアム、グループリーグ戦と、A、Bグループの1位による決勝戦が行われる。

63年度府県リーグ決勝大会日程(関西協会主催)

＜Aグループ＞			
12/4	12時	西淡FCー海南クラブ	紀三井寺
	14時	大阪府警ー奈良クラブ	〃
12/11	12時	大阪府警ー海南クラブ	神戸中央
	14時	西淡FCー奈良クラブ	〃
12/18	12時	西淡FCー大阪府警	神戸中央
	14時	奈良クラブー海南クラブ	〃
＜Bグループ＞			
12/4	12時	北摂蹴鞠団ー滋賀愛蔵会	水口
	14時	三菱神戸ー日本写真印刷	〃
12/11	12時	三菱神戸ー滋賀愛蔵会	太陽陸上
	14時	日本写真印刷ー北摂蹴鞠団	〃
12/18	11時	北摂蹴鞠団ー三菱神戸	太陽球技場
	14時	日本写真印刷ー滋賀愛蔵会	〃
＜決勝戦＞			
12/25	11時	Aグループ1位ーBグループ1位	大阪うつば

第68回 全日本選手権大会 天皇杯

昭和63年度第68回天皇杯全日本選手権決勝大会の組み合わせが11月28日、日本協会から発表された。

参加するのは日本リーグ(JSL)1部12チームと地域の代表権を獲得した20チームの計32チームで、12月24日から全国各地で行われるが、今年も準決勝の1試合が神戸中央球技場で、12月29日、14時から行われる。

例年神戸での準決勝は30日であったが、日程の都合で今回から29日となった。それにとってもなっており、昭和63年度神戸市少年サッカーリーグ1部決勝も、29日に12時から行われる。

大会は、日本リーグで11連勝を記録して前期を折り返した日産自動車、総理大臣杯大学トーナメント、関東大学リーグ優勝の筑波大と1回戦で対戦する。日産がどこまで勝ちあがるか、日本リーグでは不振だが、3連覇を目指す読売クラブが、それを阻むかなど興味を持たれる。

関西勢ではヤンマー、松下などの活躍が期待され、大学では大商大、大体大、同志社大が、田辺製薬とともに関西大会を勝ち抜き、参加する。

天皇杯 決勝大会へ 田辺、大商、同志社、大体大出場

第68回天皇杯全日本選手権・関西大会は、10月23日から11月13日まで、神戸総合サンプ、神戸中央球技場ほかで38チームが参加して、4組それぞれのトーナメントによって争われた。

兵庫県予選を勝ち抜いた旭ガラス高砂、西淡FC、明南FC、関学大の4代表は各組でよく健闘し、3チームが1回戦の壁を突破した。

各組の1位4チームが、12月24日から全国大会に出場する。

第68回天皇杯全日本選手権関西大会結果

田辺製薬	旭ガラス高砂	日本写真印刷	京都府警	天理大	三菱自京都	貝塚FC	奈良クラブ	京都産大
1	0	6	1	1	0	0	9	5
3	2	4	1	1	1	1	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0

NTT関西	大阪経大	海南クラブ	田辺FBC	神戸大	三洋電洲本	大阪教員	明南FC	愛蔵会滋	同志社大
0	0	0	2	1	1	2	3	0	5
0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第68回天皇杯全日本選手権決勝大会組合せ

ヤマハ発動機	東邦チタニウム	富士通	松下電器	コスモ石油	東芝	青学	本田技研	読売クラブ	TDK東北	駒大	YKK北信越	ヤンマー	札幌大	筑波大	日産自動車
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

神戸市社会人運営会議予定 次回 1月19日 (木)

18時30分から神戸市立勤労会館4階会議室。社会人リーグに参加している各チームの代表者は必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



ユ-ハイム

兵庫県 高校選手権

昭和63年度兵庫県高等学校選手権大会兼第67回全国高等学校選手権大会県予選中央大会は、10月29日から総合運動公園球技場、北須磨高校、滝川第二高校、磯上の各会場で予選リーグを行った。総体のベスト4を含め順当にベスト8が決まった。しかし、御影工、八代学院、滝川第二の3強とそれを伴う神戸弘陵は、各チームとも今一つ調子が悪く予断を許さない状態であった。

決勝トーナメントは11月6日、しあわせの村運動広場でベスト8による激突が始まった。

第1試合で、予選リーグとは見違えるようなすばらしい内容で、神戸弘陵が前半にあげた1点を守り切って優勝候補筆頭の御影工を下した。第2試合は関学が2対2、延長PK戦で2PK1と須磨東にせり勝った。第3試合の滝川第二は、前半1対1のあと後半2点を上げて、絶好調の三原を破り貫録を見せた。第4試合も互角の試合運びで前半、延長も得点なくPK戦になった時には秋の日は暮れはじめ、ボールが見えず、ゴールキーパーは、ただ惑を頼りに飛ぶしかなかった。結局八代学院が5PK4で西宮東に勝って準決勝に進出した。

準決勝は11月10日、神戸中央球技場で行われた。第1試合は神戸弘陵が個人技で関学をうまわり、17分⑧番原田が中央で関学バックをかわして強烈なシュートを放って、キーパーの手をはじいて右上へゴール。後半8分⑨番青木が中盤からロングシュート、ライナーで左端へ決めて快勝した。第2試合滝川第二は、5分②番浅野が右コーナーキックから出て来たボールを、一瞬のすきを突いて矢のようなシュートを放って先制。32分、⑨番藤井が中央線からドリブルで突破、20mのシュートを左端へ決めて2点目、55分⑬番中村が抜け出してキーパーと1対1になり、動きを良く見てゴロのシュートで得点、八代学院の攻撃を25分⑬番相原の、キーパーの出てくる所をバントキックで越した頭脳的な1点にとどめて、3年連続決勝戦へ駒を進めた。

決勝戦は11月13日、関係者、ファンでほぼ一杯となった神戸中央球技場で神戸弘陵と滝川第二の対戦で1時に開始された。県高校選手権3連覇と、全国大会出場を目標にして来た滝川第二にとって、13分からの3分間は悪い夢を見ているような時間帯であったと思



神戸弘陵初優勝 全国大会出場



われる。まず神戸弘陵が左サイドでフリーキックを得て⑨番青木が高いボールをけたが、GKとバックの連係のミスからゴールイン。まだそのショックから立ち直れない15分に、弘陵の⑤番竹村から出た高いパスを⑬番佐藤にヘッドで越されて、たちまち2点を奪われた。その時、滝川第二は積極的に攻撃をしたが、神戸弘陵の体を張った守備と、あせりのために結局得点することができず、神戸弘陵が2対0で勝って優勝し、念願の打倒滝二を達成し、全国高校サッカー選手権出場の実現した。

決勝 (11月13日、神戸中央球技場)

神戸弘陵 2(2-0)0 滝川第二

【決勝戦評】県高体連サッカー部 山下隆生
63総体出場校をそれぞれ破って決勝に進出し初優勝をねらう神戸弘陵対総体の雪辱と3連覇に燃える滝川第二の対決。優勝戦らしく気合いの入ったきびきびした動き、パスのつながりで好試合となる。中盤5人と厚くし中盤の支配からチャンスをうかがう滝川第二に対し、FWを前に残し大きなパスでチャンスをつくる弘陵。滝川第二の3人のバックと

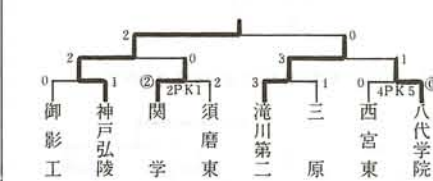
浅くなった背後の間をうまく突き神戸弘陵が、13分フリーキックから⑨番徳久が滝川第二GKにせり勝って先取点。更に勢いに乗って15分、⑬番佐藤の思い切りの良い走り込みで、飛び出した滝川第二GKの頭上をヘッドで抜き追加点をあげた。この2点を追って滝川第二が猛反撃するが弘陵のGK神川の好守とBKの必死の守りで得点を許さず、神戸弘陵の初優勝となった。

神戸弘陵の1年FWが決勝戦で見せた、思い切りのよいプレー、がんばりは見事であった。全国大会での活躍を期待する。

【神戸弘陵】				【滝川第二】			
12	神川	2	年GK	12	山田	▷得点者	
14	福井	2		4	満富	【弘陵】	
14	福岡	3		3	小世	13分 徳久	
⑬	小林	3	DF	5	鎌田	15分 佐藤	
5	竹村	3		2	浅野	▷交替	
10	宮本	3		13	井上	【弘】山崎(11)	
19	徳久	3	MF	7	矢吹	梅沢 (14)	
8	原田	2		9	藤井	小笠原 (9)	
11	石橋	1		8	泉	【滝】大場(13)	
9	青木	3	FW	10	中林	佐藤 (14)	
14	佐藤	1		11	中村	花井(佐藤)	
5	SH	20	13GK	1	0	GK	9
							19FK
							23

昭和63年度兵庫県高等学校選手権大会 兼第67回全国高等学校選手権大会予選結果

〈決勝トーナメント〉



4 前半15分 神戸弘陵 ⑬ HS 2点目ゴール

第22回兵庫県中学生選手権大会 大庄北中13年ぶり3度目の優勝!

第22回兵庫県中学生選手権大会は10月23、30、11月3、6、13日に瓦木、二見、灘、六甲、福田、大成、高倉の各中学校グラウンドと、神戸中央球技場で開催された。

決勝戦は11月13日、神戸中央で大庄北中と玉津中の対決となり、大庄北が地力を発揮して次々と得点をかさね、6対0の大差で玉津を完封して、13年ぶり3度目の優勝を飾った。▶決勝 (11月13日、神戸中央)

大庄北中 6 { 2-0 / 4-0 } 0 玉津中

【評】兵庫県中学生選手権大会決勝は、尼崎代表大庄北と、神戸代表玉津の対戦となった。試合開始から個人技、戦術で上の大庄北が、玉津にリズムをつかませず、終始自分たちのペースでゲーム運び、6-0と圧勝した。

両校とも試合前より大舞台でのゲームに、やや緊張気味の様子だった。立ち上がり足が地に付かないでいる状態の5分、大庄北が⑦番延命からのロビングボールをゴール前でうまくコントロールし、DFをかわして⑨番甲斐が見事なシュートを決めて先制し、リズムをつかんだ。8分にも⑧番豊田の左からのセンターリングを⑪番金田がヘッドで決めて2点リードした。その後、大庄北の主導で終始、玉津はチャンスらしい場面を作ることが出来なかった。

後半に入っても玉津はいつもの元気がなく、31分ゴール前でのクリアミスが自殺点とな

第22回 兵庫県中学生選手権大会結果

東神戸(神)	2	0	大庄北(尼)	2	0
大白書(姫)	3	5	瓦木(西)	1	0
御原(淡)	3	5	姫路灘(姫)	0	0
朝霧(明)	0	0	三木(播)	0	0
六甲(神)	4	1	豊岡北(但)	0	0
上甲子園(西)	4	1	船橋美(東)	0	0
宝塚(北)	6	0	清和台(北)	2	0
河合(播)	1	0	垂水東(神)	0	0
明倫(尼)	3	2	歌敷山(神)	1	0
伊丹西(北)	3	2	伊丹東(北)	0	0
塩瀬(西)	2	1	赤穂東(竜)	0	0
三田(丹)	3	3	中町(播)	1	0
加古川(東)	0	2	増位(姫)	2	0
玉津(神)	0	2	みさきFC(神)	4	0
淳心(姫)	2	2	大成(尼)	2	0
南(芦)	0	2	二見(明)	2	0

神戸市高校 新人戦開幕

昭和63年度神戸市高校新人大会は12月3日に開幕され、1月21日まで伊川谷北、北須磨、滝川第二、神戸高塚、御影、神戸甲北の各高校グラウンドと、磯上、神戸中央球技場で行われる。

秋季リーグ戦1部、AB各ブロック1位の御影工、滝川第二を第1シード、1部リーグの須磨東、御影、赤塚山、育英、六甲、八代学院、北須磨を第2シード、2部リーグ校の神戸、星陵、兵庫、神戸甲北、市神戸工、灘、葺合、須磨、長田を第3シードとした。

本大会の上位6チームと神戸弘陵が県高校新人大会に出場する。

昭和63年度 神戸市高校新人大会 組合せ

滝川第二	24	15	15	24	4	24	4
伊川谷北	24	15	15	24	4	24	4
鈴蘭台	24	15	15	24	4	24	4
神戸	24	15	15	24	4	24	4
星陵	24	15	15	24	4	24	4
須磨東	24	15	15	24	4	24	4
兵庫商	24	15	15	24	4	24	4
東灘	24	15	15	24	4	24	4
御影	24	15	15	24	4	24	4
赤塚山	24	15	15	24	4	24	4
市神港	24	15	15	24	4	24	4
神戸西	24	15	15	24	4	24	4
育英	24	15	15	24	4	24	4
六甲	24	15	15	24	4	24	4
夢野台	24	15	15	24	4	24	4
兵庫工	24	15	15	24	4	24	4
須磨丘	24	15	15	24	4	24	4
市神戸工	24	15	15	24	4	24	4
葺合	24	15	15	24	4	24	4
伊川谷北	24	15	15	24	4	24	4
神港学園	24	15	15	24	4	24	4
八代学院	24	15	15	24	4	24	4
北須磨	24	15	15	24	4	24	4
鈴蘭台西	24	15	15	24	4	24	4
灘	24	15	15	24	4	24	4
長瀬	24	15	15	24	4	24	4
神戸北	24	15	15	24	4	24	4
村野工	24	15	15	24	4	24	4
御影工	24	15	15	24	4	24	4

神戸の新春を飾る(1/5~7)

ウィンター・フェスティバル 読売クラブなど強豪が集まる

第16回ジュニア・サッカー・ウィンター・フェスティバルは、昭和64年1月5日から7日まで神戸中央球技場ほかで行われる。今回も中2、中1、小6、小5以下の部の4部門で争われるが、中2、小6以下の部に16チームづつ、中1、小5以下の部で8チームづつの計48チームが参加し、4チームごとの一次リーグの後、順位トーナメントが行われる。

クラブチームの育成を目的に始めたこの大会も16回を数え、参加チームも西日本中心から関東まで地域が広がった。今回もクラブチームの強敵読売クラブが中2以下の部で参加する。また、小6以下の部では63年度神戸市少年リーグ上位8チームが参加し、レベルの高い試合が期待される。

【参加予定チーム】

〈中2以下の部〉

A組 読売、明倫、みわ(鳥取) 神戸Jrユース
B組 愛知、枚方、香東川(高松) 神戸Jr・A
C組 刈谷81、高浜(愛知) 暁(京都) 大東住北
D組 カネヅカ(千葉)、わかば(福岡)、網野(京都) 交野

〈中1以下の部〉

A組 暁、交野、灘中、神戸Jr・B
B組 大磯(名古屋) 上野(三重) 枚方、四条畷
〈小6以下の部〉

A組 交野、米子、垂水SS東舞子、高倉台
B組 枚方、西日本選抜、みさき、木津
C組 高石中央、こやま(鳥取) 神戸FC、神陵台

D組 わかば(福岡) 長尾(香川) 多井畑、夢野

〈小5以下の部〉

A組 愛知、津山、米子、神戸FC
B組 刈谷、御津、松山、神戸市選抜
(注)小6の部の神戸市内のチームは、63年度市少年リーグ上位7チームが出場する。

新連載

天に天国あり 地にフットボールあり

南アメリカ3カ月の旅②

<16>

上野 勝幸

ワールドユース大会を、同じ年代の若者が競い合う日本の高校選手権大会からイメージを膨らませて考えるのは正しくない。

やや小振りの体付きや、たまに犯すミスに目をつぶる。気分はすっかりワールドカップ。むしろ、完熟度の高い選手が集うワールドカップとはひと味違った、「若鮎(あゆ)」のイキの良さが魅力の一つでもある。

チリの国民のバカ騒ぎもワールドクラスだ。

南米選手権やリベルタドールズ杯などの国際試合には毎年接しているが、チリに

世界的規模の大会がやってきたのは、1962年のワールドカップから実に25年ぶり。チリの試合がある日は、商店は午前中からシャッターを下ろし、国旗と同じ赤、白、青の3色で顔を塗り分けたサポーターが街を闊歩(かほ)する。キックオフのころになると人通りが消え、両足をそろえてテレビの前に座った犬までも、十字を切ってチリの勝利を祈った。

第6回ワールドユース大会結果

優勝	ユーゴスラビア(ヨーロッパ)
準優勝	ドイツ(ヨーロッパ)
3位	東ドイツ(ヨーロッパ)
4位	チリ(南アメリカ)
5位	イタリア(ヨーロッパ)
6位	ブラジル(南アメリカ)
7位	スコットランド(ヨーロッパ)
8位	ブルガリア(ヨーロッパ)
9位	コロンビア(南アメリカ)
10位	カナダ(北中米)
11位	米国(北中米)
12位	オーストラリア(オセアニア)
13位	パレーン(アジア)
14位	ナイジェリア(アフリカ)
15位	サウジアラビア(アジア)
16位	トーゴ(アフリカ)

ワールドユース大会の通算成績(上位12か国)

順位	国	第1回 ユニメ	第2回 日	第3回 オーストラ	第4回 メキシコ	第5回 ソ	第6回 チ	試合 勝	負け	得点 総失点	勝ち点
1	ブラジル	③	—	⑥	優勝	優勝	⑥	25	18	4	3
2	アルゼンチン	—	優勝	③	②	—	—	15	12	1	3
3	西ドイツ	優勝	②	②	②	④	—	20	8	7	5
4	ソ連	—	—	優勝	②	—	—	12	10	1	5
5	メキシコ	②	①	—	—	⑤	②	18	4	9	5
6	スウェーデン	⑦	⑥	④	④	②	—	16	5	6	5
7	オーストラ	—	④	—	—	—	—	15	6	3	6
8	ユーゴスラ	—	⑨	—	—	—	優勝	9	6	1	2
9	オーストラ	—	—	⑦	—	④	—	13	3	5	5
10	パレーン	—	—	④	—	—	—	12	4	3	5
11	ナイジェ	—	—	—	—	③	—	12	4	3	5
12	トーゴ	—	—	—	—	—	—	3	0	2	1

○内数字は大会順位、一は本大会不参加(地域予選で失格)

モンブラン発。愛するサッカー人へ。



マーカムSFホワイト
●カラー/ブラック×ホワイト・レッド・グレー ●サイズ/20.0~27.0cm
標準小売価格 ¥5,000

モンブラン株式会社 本社 〒653 神戸市長田区神楽町4丁目7-16 TEL(078)641-8881 東京支店 〒111 東京都台東区浅草橋3丁目10-8 TEL(03)862-5891 福岡営業所 〒816 福岡市博多区那珂1丁目1-12 TEL(092)473-8881



コーチャーCTR-21
●カラー/ブラック×ホワイト ●サイズ/21.0~28.0cm
標準小売価格 ¥5,600

NEW



コーチャーCTR21-PS
●カラー/ブラック×ホワイト ●サイズ/22.0~28.0cm
標準小売価格 ¥5,200

NEW



の国 4
1立 初
点競 優
場技 勝
場 場
▼チ ー
リゴ ー
アス ー
ラビ ー
ア(白 ー
下)は ー
しベ ー
ス4は ー
この ー
進出 ー
PK ー

なお他国が及ばない。

チリは変則スーパーステムをとった。正確には、1-4-1-2-2 ということになる。他のチームに比べて非力で、しかも小柄な選手が多いことを考えればやむを得なかったのだろう。長身のツドールが得点をねらい、コルテスが最後尾で、4人のバックスの“ほころび”を織った。チリの4位入賞は、狂喜する国民とスーパーステムの共同作業だった。

東西両ドイツは4-4-2の布陣で臨むことが多かった。優勝したユーゴスラビアもはっきりとしたスーパーステムは、ミユッチと、日本人の想像を絶するものだ。西ドイツがボールをキープするとすかさずブレイキング。そんな中でも落ち着いてプレーできる西ドイツ選手の精神的な強さが、印象に残る。日本流の根性論で通用するかどうか。

青・白・青のユニホームのイタリアは、分厚い守備で固める「カテナチオ」の伝統を受け継ぎ、簡単には失点を許さない自信にあふれていた。ブラジルの個人技はやはり世界一。相手が4分の3拍子でプレーするなら、ブラジルの選手は4分の4拍子といったところか。タッチの細かさや柔らかさは、

同じようなタイプの上位3チームの中で、ユーゴスラビアが栄冠を手にしたのは、ユース年代では傑出した実力を持つスケルの活躍に負うところが大きかったが、同時にユーゴスラビア国内のコーチングシステムの実実ぶりが、にじみ出ていたようにも思う。

ワールドユースの選手たちの戦術眼は、もう「大人」である。小さな局面でチョコチョコとボールをつないで「ため」を作り、敵の選手が突っ掛けてくると、ボールをボボーンと散らす展開は、ナショナル・チームのまろやかなコクと同じ種類のものだ。スペースの作り方、パスとドリブルの調和、そして同じパスでも短いものと長いもの、速いものと緩いものの組み合わせ

によるリズム感には、思わずうなずいてしまう。

ユースの年齢は16歳から19歳まで。2年ごとの開催だから一人の選手が2回出場することは可能だが、この年代での1歳の差は大きい。このためワールドカップと違って毎回新しい選手で構成するのが普通であり、チーム作りが大変だ。

しかし、6回までの通算成績をみると、参加47か国のうち、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチンの南アメリカ勢が上位を占め、ソ連がこれに続く。韓国、ナイジェリアが健闘している3チームの中で、ユーゴスラビアが栄冠を手にしたのは、ユース年代では傑出した実力を持つスケルの活躍に負うところが大きかったが、同時にユーゴスラビア国内のコーチングシステムの実実ぶりが、にじみ出ていたようにも思う。

ワールドユースの選手たちの戦術眼は、もう「大人」である。小さな局面でチョコチョコとボールをつないで「ため」を作り、敵の選手が突っ掛けてくると、ボールをボボーンと散らす展開は、ナショナル・チームのまろやかなコクと同じ種類のものだ。スペースの作り方、パスとドリブルの調和、そして同じパスでも短いものと長いもの、速いものと緩いものの組み合わせ

うが、ユース年代を境に相対関係は逆転する。少年時代には細切れの指導を受け、スポーツの実像を見極めな

いまま勝利至上主義の足かせをはめられた日本の社会で、国際級の選手が誕生するのは容易でない。

「井の中の蛙(かわず)」、言い古された言葉ではあるが、ワールドユース大会を見終えた今、やけに新鮮味を覚えている。 —続く— (うえのかつゆき 写真も)